齋 こころざし高く（第2号）

人権・同和教育部
2018年7月20日発行

◇1年生　よりよい人間関係をつくるために

「いじめ」とは何か？
根本にかえって考えることを通して、より良い人間関係の築き方を考える授業を目指しました。事前にアンケートを実施し、「いじめ」に関して生徒の意識調査を行い、その結果について４～５名のグループに分かれて協議を行いました。固定概念が差別につながる危険があること。自分では何でもないと思っていることでもいじめになりうるにことがあるということついて考えるきっかけになったと思います。

＜生徒の感想＞
- 一番大切なことは相手の気持ちを分かってあげることだなと思いました。
- 他人を受け入れる器の大きな人間になりたいと思った。
- 一つの意見や物事にとらわれるのではなく、いろいろな方向から見て考えていきたいと思った。
- ここからはいじめになるなどきちんと規則がないから難しい。

2年生　部落差別の歴史(1)　～解放令と水平社宣言～

部落差別の歴史と水平社創立宣言について学びました。「部落差別」は、「ケガレ」意識に基づき、特定の職能を持つ人々に対する賤視観から発生し、それらの人々が政治的に身分として固定化されていったため広まったものであると考えられています。明治以降も、就職・結婚・交際などの様々な場面において同和地区住民の権利が侵害され続けています。そこで、同和問題の解決に向けた取り組みとして、1922 年に宣言された「水平社創立宣言」の内容を学び、その精神から、私たちが大切にしなければならないことは何かを考えました。

＜生徒の感想＞
- 私も自分に自信がないけれど、DVD の中で言っていたように「人は皆違う色を持っている」と前向きに考えると、気持ちが楽で頑張ろうと思えた。
- 自分自身が差別をしないことが大切であり、もししている人がいるならその差別とはどういうことなのかを話して、一人でも差別する人がいなくなるようにしたい。
- 自分にも他人にも誇れる生き方をしたいと思った。

3年生　差別選考をなくす取り組み　～統一応募用紙と 12 項目の取り組み～

就職・進学試験における差別選考をなくすための取り組みについて学習しました。履歴書の統一応募用紙が導入され、家族についての記入欄がなくなり、志望理由の記入欄が大きくなったことなどを学習しました。また、模擬面接（右写真）を実施して、差別につながるおそれのある 12 項目について理解し、差別選考に直面したときにどのように対応したらよいかということについても学習しました。

＜生徒の感想＞
- 一人ひとりの差別に対しての理解が必要だと思った。
- 面接の時、12 項目に関する質問が来てもきちんと対応できる勇気を持つようにしたい。
- 自分の能力以外で差別するのは間違っているし、傷つく人たちもたくさんいる。自分のがんばりや長所を見て採用を考えてほしい。
- 「こんなことめったにない」と思っていたが、今回の授業で自分にも身近な問題であることがわかった。

切り取り線

ご意見・ご感想・ご質問があれば、生徒を通じて、提出してください。